

大学院看護学研究科 博士前期課程		授業 科目	保健医療福祉論 Social Policy of Health and Medical, Welfare Care			担当 教員	蘭由岐子(専 任) 山崎るり子(非常勤)	
開講年次	1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目 実践看護学	授業形態	演 習	
選択必修	選 択	時間数	30時間			使用教室		
授業の目的及びねらい		<p>前半では、保健医療福祉システムのあり方が、どのような歴史をもち、いまどこに向かおうとしているのか、理論的に考えたい。</p> <p>また、後半では、社会福祉学的視点から、疾患が、その人の生活や仕事にどのような影響を与えるのかを理解し、どのような法的、制度的支援を活用できるのかを考察する。その際、これまでの臨床経験をもとに学生が事例を提供することとする。</p>						
授業のキーワード		医療化、社会的構築、支援、社会福祉制度、医療制度						
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画							
第1・2回 第3・4回 第5・6回 第7・8回 第9・10回	<p>イントロダクション、医療システムと病院の世紀 医療システムを支える医師 「医療の社会課」運動 病院の世紀の終焉、健康戦略の転換と包括ケアシステム 病床をめぐる議論</p>							
第11・12回	<p>医療保険、介護保険を中心に社会保障制度を体系的に復習する。 背景となる社会経済状況の変化、診療報酬改定の影響、病院の機能分化など、現代の医療事情を知ることにより、それぞれの病院の立場や患者・家族のおかれている状況を理解する。 そのなかで、社会資源とは何か、医療の現場で制度がどのように活用されているかを、事例やグループワーク等を通して学ぶ。</p>							
第13・14回	<p>事例検討 学生の提出事例を題材に、どのような制度的支援が考えられるか、ディスカッションを行う 他職種との連携、チーム医療について 第11～14回のまとめ</p>							
第15回	授業についての振り返りと総括							
テキスト	猪飼周平『病院の世紀の理論』有斐閣 (前半用)							
参考文献								
成績評価の方法と基準	報告 40%、ディスカッション参加度 20%、最終レポート 40%で評価する。							
教員から学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を求めます。第11～14回の開講日は決まり次第お知らせいたします。							